活動報告

2012年度　全学教育センター　FD活動報告

矢　崎　裕美子
日本福祉大学　全学教育センター
曲　田　浩　和
日本福祉大学　経済学部

Report on Faculty Development Activities by Nihon Fukushi University Development Center in the Academic year 2012

Yumiko YAZAKI
University Educational Center, Nihon Fukushi University
Hirokazu MAGARIDA
Faculty of Economics, Nihon Fukushi University

1．2012年度全学FD概要

2012年度全学FD活動として，2007度から実施をしているきょうゆうサロンとバスツアー，昨年度から開始したランチタイムFD，ICTスキルアップ講座を実施した．さらに，新任教員を対象としたFDも実施した．各FDの日程を表1―1に示す．

1―1．全学FD

1）きょうゆうサロン・ランチタイムFD

きょうゆうサロンは9月に1回，ランチタイムFDは年4回（6月，10月，11月，12月）実施し，2011年度より年間の共通テーマを設けた．2012年度は，「学生の就職先からみた大学教育」をテーマに掲げ，学外の各方面からゲスト講師を招き，主に大学生の間に身につけておきたい力について情報交換を行うこととした．ランチタイムFDは，昼食の時間12：40～13：20を利用し，話題提供者には15～20分程度の話を依頼し，その後質疑応答の時間にした．きょうゆうサロンは，ランチタイムFDに比べて90分と開催時間が長いため，今年度は一般企業（金融）の方，福祉系企業の方，NPO法人の方3名に話題提供者として来ていただき，各方面から学生に求められる力についてお話をいただいた．ランチタイムFDは，6月にはNPO法人の方，10月には人材サービスの方，11月には本学教員，12月には本学の学生をよく知る一般企業（情報）の方に話題提供をお願いした．

参加者はきょうゆうサロン32名，ランチタイムFDは11名～2名と一定数が得られたが，10月のランチタイムFDは14名と少なめであった．これは他のFDを火曜～木曜開催に設定したのに対し，10月のみ月曜開催にしたため，出校している教員が他の曜日より少なく，結果的に参加者も少なかったと考えられる．ランチタイムFDは，曜日を分散することでさまざまな教職員が参加できるようにしたが，月曜は開催曜日として適していないことが分かった．また，各FDではUstream（ユーストリーム）によるインターネットリアルタイム配信を行い，同時に収録も行うことで後日でも視聴できるよう

表1－1　2012年度全学教育センター　FD実施日程

①全学FD		
開催時期	開　催　テ　ー　マ	参加人数
「きょうゆうサロン」		
2012年　9月20日	学生の就職までに身につけてほしい力と大学教育	30名
「ランチタイムＦＤ」		
2012年　6月23日	キャリア支援団体から見た社会で必要な力とは	22名
2012年10月22日	就職情報サービス企業から見た，就職までに身につけてほしい力とは	14名
2012年11月20日	教職を目指す学生に必要な力とは	21名
2012年12月19日	本学学生をよく知る企業から見た，大学時代に身につけたい社会で必要な力とは(半田キャンパスでの開催)	11名
「きょうゆうサロンバスツアー」		
2013年3月15日予定	ごんぎつねの昔と今～新美南吉生誕100年にあたり，ゆかりの地を歩く～	20名程度を予定
「ICTスキルアップ講座」		
2012年　7月19日	SPSS講座第1回　基礎編	18名
2012年　7月25日	SPSS講座第2回　上級編	18名
②新任教員FD		
開催時期	開　催　テ　ー　マ	
2012年　4月　2日	新任教員オリエンテーション（研究支援，キャンパスツアー等)	
2012年　6月　7日	精神的に不安定な学生への対応の基本，障害学生への対応の基本	
2012年12月　6日	本学の“運営面”を理解する（大学組織や意思決定のしくみ)	

にした．各回の視聴人数は多くなかったが，毎回若干名の視聴者がいた．参加者アンケートの結果は次章で詳細に述べる．

2）きょうゆうサロンバスツアー

きょうゆうサロンバスツアーは，2007年度より開催し，2012年度は7回目を迎え，毎回10名～20名が参加をしてきた．今年度は「ごんぎつねの昔と今～新美南吉生誕100年にあたり，ゆかりの地を歩く～」をテーマに，半田周辺地域の教育資源・教育フィールドの視察や見学ツアーを行う予定である（2013年3月実施予定)．

3）ICTスキルアップ講座

ICTスキルアップ講座は，本学の教育における情報活用の促進や教員の資質向上を目的として開催している．2011年度はMicrosoft Officeやオンデマンド教材の活用法についても講座を行ったが，参加者が多くなかったため，10名以上の参加者が得られたSPSS講座のみ今年度も開講した．SPSS講座は，2週にわたり，基礎編と上級編を開催した．

昨年度同様今年度も多くの方の参加があり，参加した教職員には概ね好評であったと思われる．しかし，課題も残された．基礎編は特に問題なく終了したものの，上級編は参加者の知識やスキルに幅があったようである．特に，自身の研究で統計を扱っておりその問題を解決するために参加したと思われる教員もおり，研究にSPSSを活用したいといった新たなニーズを発掘したという側面もあるが，今回の講座の趣旨からは若干の物足りなさを感じたのではないか．またその点は，本学の教育に活かすという全学FDという範疇から越えてしまったようにも思える．今回の実施結果を踏まえて，本講座の目的，扱う範囲や事例として扱うデータの精査や運営体制等を見直していく必要がある．

1－2．新任教員FD

新任教員FDは，本学に新たに赴任した専任教員を対象としたFD学習プログラムであり，2009年度より実施している．この学習プログラムは例年概ね変わらず，4月の赴任時にオリエンテーション，6月と11-12月の2回の学習会と計3回の構成となっている（表1－1参

照)．2012年度も例年に倣い，4月に新任教員オリエンテーション，6月には「障害学生（発達障害を含む）への対応の基本」，12月には「本学の運営面を理解する」をテーマに掲げ，実施をした．

学習会の内容については，出席者アンケートからも満足度は高かったと言える．ただし，もう少し早い時期での開催を望む声もあった．2011年度も同様の声があったため，特に6月の第1回目学習会の開催時期は，5月中に開催できるよう検討を行う必要がある．また，新任教員が少ないなかで行われたため，アンケートに所属学部を入れると記入者が明らかになってしまう．今年度第2回目の学習会からアンケートの「所属」項目をはずすようにした．

2．全学FDアンケート結果

全学FD活動，各回に参加者アンケートを実施し，次年度に活かす試みを2010年度より行っている．アンケート内容を共通の基準に設定することで，FD活動の全体の傾向を把握することを可能にした．以下では，特に全項目を共通の項目でたずねている「きょうゆうサロン」(1回実施）および「ランチタイムFD」(4回実施）のアンケートのまとめを報告し，今後のFD活動の参考資料としたい．分析の観点は，参加者（延べ71名）の属性，参加者の評価得点およびFDに対する満足度の規定因を把握することである．

1）アンケートに回答した参加者の属性

① 職種

専任教員が41名（57.7%)，非常勤教員が2名（2.8%)，専任職員が22名（31.0%)，その他が5名（8.5%)であった．

② 所属学部

職員を除いた46名の結果は，社会福祉学部6名(13.0%)，経済学部7名（15.2%)，健康科学部3名(6.5%）子ども発達学部13名（28.3%)，国際福祉開発学部4名（8.7%)，福祉経営学部3名（6.5%)，全学教育センター10名（21.7%）であった．

2）参加者の評価得点

上記の回答者71名分のアンケート結果について，平均値と標準偏差を算出した．その結果，「そう思う（4点)」～「そう思わない（1点)」の4件法でたずねたほとんどの項目が3点以上の平均値を示した（表2－1)．つまり，FDに参加した多くの教職員が，肯定的な評価をしたことが分かる．特に，ランチタイムFDの満足度(項目1）は3.81と高い得点を示した．唯一3点を下回った項目は，きょうゆうサロンにおける「配布資料の分かりやすさ（項目5)」であった．

3）FDに対する満足度の規定因

参加者の満足度は何によって規定されているのであろうか．2)で分析した満足度と他の項目の関連を見るため，きょうゆうサロン，ランチタイムのデータを全て含め，全項目間の相関係数を算出したところ，満足度はすべての項目と有意な正の相関を示した（表2－2)．つまり，すべての項目において，肯定的な評価をした人ほど満足度も高いことが言える．特に，「話題提供者の説明は分かりやすかった」という項目と満足度との相関が高

表2－1　FDに対する評価得点（平均値と標準偏差)

質問項目		きょうゆうサロン N＝19		ランチタイムFD N＝52	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	今回のFDは全体的に満足のいくものだった	3.47	0.70	3.81	0.40
2	FDの目的は分かりやすく説明された	3.58	0.69	3.77	0.43
3	内容はちょうど良いレベルに設定されていた	3.37	0.83	3.69	0.51
4	分かりやすい順序で進められた	3.53	0.70	3.63	0.49
5	配布資料は分かりやすかった	2.94	0.80	3.58	0.57
6	話題提供者の説明は分かりやすかった	3.53	0.70	3.87	0.34
7	FDを通して有益な情報を得ることができた	3.37	0.83	3.65	0.52
8	今回の内容は今後の自身の取組（指導・支援）に役立ちそうだ	3.32	0.82	3.62	0.53

表 2－2　各項目間の相関係数

		2	3	4	5	6	7	8
1	今回の FD は全体的に満足のいくものだった	.673 **	.634 **	.668 **	.460 **	.720 **	.605 **	.564 **
2	FD の目的は分かりやすく説明された	—	.679 **	.668 **	.378 **	.547 **	.605 **	.652 **
3	内容はちょうど良いレベルに設定されていた		—	.671 **	.378 **	.509 **	.596 **	.585 **
4	分かりやすい順序で進められた			—	.405 **	.631 **	.509 **	.415 **
5	配布資料は分かりやすかった				—	.544 **	.336 **	.375 **
6	話題提供者の説明は分かりやすかった					—	.720 **	.543 **
7	FD を通して有益な情報を得ることができた						—	.802 **
8	今回の内容は今後の自身の取組（指導・支援）に役立ちそうだ							—

** $p<.01$

く，話題提供者の話の分かりやすさはとりわけ参加者の満足度に影響することが示唆された．

3．総括

FD のテーマを年間で通したことで，さまざまな視点から，就職を意識した学生への教育を考えることができた．社会人になるという意識を学生に持たせることが大切である．大学は高等教育機関として専門教育を学ぶ場所であることはいうまでもないが，それ以前にこれから社会人になろうとする学生には，その意識を持たせる必要がある．

そのためには学生を子供扱いしないことである．学生の人格には触れず，行動内容の良し悪しを学生に判断させること，目的を達成できた原因から失敗した行動を考えたり，これから起こりうることを具体的に 3 点以上挙げることなどである．さらに，大学時代でしか学ぶことができない「人間力」を，学生がさまざまな経験を通して身につけることのできる環境を大学が整えることも必要である．

また，企業・NPO などの諸団体・小中学校の新人教育の事例を知ることは，FD のみならず SD につながる面もあった．職員の参加が多く，SD に関する質問もみられた．

スキルアップ講座では，FD の一環として，入門・初級レベルのプログラムを用意したが，それ以上の技術レベルを求められる場面もあった．開催告知の見直しもしくは内容の改善が必要である．

新任教員 FD は，2011 年度と同様のプログラムであった．年々雇用形態が多様化するなかで，教員として求められる役割が異なるが，FD としてとくに問題があったわけではない．本学の特徴を示すプログラムになっている．開催時期に関して検討の余地はあるものの，次年度も変わらず実施をしていきたい。